全道代表者会議

令和８年度前期　渡島支部　活動報告

【渡島支部】

渡島体育研究会

Ⅰ．はじめに

今年度開催の「第６２回北海道学校体育研究大会渡島大会」に向け、３年前に新たな研究主題を立ち上げ、これまで実践と検証を重ねてまいりました。『渡島らしさ』を前面に据えつつ、今回の授業者の熱意あふれる思いを十分に反映させながら、授業づくりを丁寧に積み上げてきました。

２．渡島支部の研究内容について

【渡島体育研究会　研究主題】

豊かなスポーツライフの実現を目指した**「ともに学びをつくる」体育学習の創造**

～楽しさを味わい、喜びを実感し、自己の成長を追求する子供の育成～

【研究仮説】

子供たち一人一人が運動の機能的特性に応じた多様な楽しさを味わい、「できた・わかった・かかわれた」喜びを実感すること、そしてそれを原動力にさらなる自己の成長を追求していくためには、教師と子供、子供同士が学びを共創することが不可欠である。
本研究会が提唱する「ともに学びをつくる」体育学習を実践すれば、運動の楽しさを味わい、喜びの実感が深まり、それがさらなる成長の追求へと向かう「実感と追求のスパイラル（自己更新）」が駆動する。
その結果として、豊かなスポーツライフの実現に必要な資質・能力が育成されるであろう。

【研究を支える３つの柱と３つの視点】

柱１　ともに課題をつくる	柱２　ともに学びを深める	柱３　ともに成長を確かめる
①思いや願いを基盤とした課題の共創→子供の「やってみたい」を拾い、課題にする。 ②運動の楽しさと問いを生み出す教材との出会い→運動の面白さが表れる教材・場をつくり、問いを生む。 ③自己調整を促す課題設定の共有→子供が自分の課題を選び、必要に応じて変えられるようにする。	①対話を通した学びの更新→話すことを目的にせず、対話によって考えや動きを変える。 ②互いのよさを生かした協働的な学び→一人一人のよさを仲間の学びに生かす。 ③試行錯誤を支える学習環境の構成→「やってみる→考える→変える→再挑戦」が起こる環境をつくる。	①楽しさや喜びの実感と意味付け→「楽しかった」を「なぜ楽しかったのか」まで掘り下げる。 ②成長の価値共有→技能だけでなく、考え方・かかわり方・挑戦する姿の変化も共有する。 ③自己更新につながる学びの連続性→「できた」で終わらず、「次はどうしたい」を次の学びにつなげる。

【渡島体育研究会の考える「渡島らしさ」】

1　運動の機能的特性の視点から捉えた楽しさを味わうことを大切に
2　ゲームを中心とした学習展開を大切に
3　心理的安全性を保つための「フェアプレイ」の合言葉を大切に
4　児童の実態を「把握すること」と実態に「合わせること」を大切に
5　自分の成長を実感できるフィードバックを大切に
6　教師と子供、子供同士がともに学びをつくるという理念を大切に

※第６２回 北海道学校体育研究大会渡島大会に向けてのプレ研の様子




